

北越工業株式会社

代表取締役社長

Terao Masayoshi

寺尾 正義

東北リース株式会社

代表取締役会長

Kanno Hiroaki

菅野 浩昭



コンプレッサー製造で圧倒的なシェアを誇る北越工業。近年では高所作業車でもトップとなるなど、ユーザー視点の製品づくりに定評のある同社の寺尾社長が、宮城県地場レンタル会社・東北リースの菅野会長と今後の展望について語り合った。

コンプレッサーは 国内85%超のシェア

菅野 2018年6月に開かれた御社の創業80周年式典にお招きいただき、ありがとうございます。当社も40年を超えるお付き合いをさせていただいていますが、北越エアマンのコンプレッサーといえば、わが国でも圧倒的なシェアを占めているというイメージがあります。

寺尾 どうもありがとうございます。当社は1938年に現在の新潟県燕市で創業した会社で、信濃川の川砂を利用してコンプレッサーの部品となる鋳物をつくり始めたのがきっかけです。戦前は潜水艦の部品をつくっていた関係から、海軍との取引が多かったんですが、戦後になって平和産業への転換として土木用のコンプレッサーに進出しました。今では国内シェアが85%を超えるまでになっています。



国内市場で圧倒的な信頼を勝ち取っているエンジンコンプレッサー

菅野 それだけの信頼がありますから、地場レンタルとしてもお客さまに安心して製品を提供できます。また、先を見据えた改良を常に行っていることもあって、建設用以外にも発電機や工場用など、時代のニーズに合わせた製品をいち早く提供していますね。

寺尾 鋳物の技術を応用してコンプレッサーを製造していた関係もあって、組み立てからアフターメンテナンスまで全て自社の技術で完結しているのが強みです。そのため、お客さまから指摘されたことはすぐ形にすることができま

す。技術と製造に対する信頼に応えるため、お客さまのニーズにできるだけ合わせ、使い勝手のいい製品を提供することを第一に考えています。

オイル漏れ防止など 環境面を追求した開発も

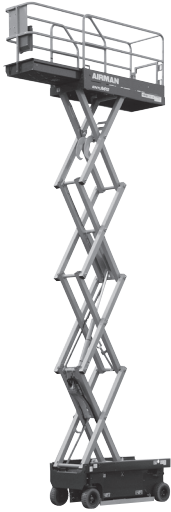
菅野 省エネにも熱心に取り組んでいますね。

寺尾 特に、環境には力を入れています。かつては油が漏れてもあまり気にしないという風潮がありましたが、近年では土壌汚染の問題もありますし、そもそもエネルギーの無駄遣いもできません。その点で省エネが厳しく要求されるようになってきています。例えば、ドラレンを除去して空気が出るような仕組みを最初から備えたり、オイル漏れを防ぐオイルフェンス一体型のリークガードコンプレッサーを開発するなど、環境にやさしい点を追求した製品開発にも取り組んでいます。

菅野 商品開発を進めていく上では、だいぶご苦労もあつたのでは。

寺尾 お客さまに一番近い東北リースのような地場企業からのさまざまなアドバイスは、商品改善の面からも重要です。技術の関係でいえば、『こうすればいい』という思い込みがどうしても出てくるんです。そういう思い込みを取っていく意味でも、実際に使っている方たちのご意見をお伺いしながらそこに合わせていく、そのプロセスが大事ではないかと考えています。

菅野 今後の事業の展開を。
寺尾 12、13年前から高所作業車にも力を入れています。後発ではありますが、お客さまからの評判も良く国内シェア



後発ながら高所作業車も国内トップのシェアに

アが5割を超えトップを占めるまでに成長しました。同じことばかりやっていては、

徐々に会社のパワーが落ちていきますので、さまざまなアクションを行って活性化していかなければなりません。そのためには、若い人の力をうまく引き上げていくことが重要です。ぜひとも東北リースとコラボしながら、新しいことにもチャレンジしていきたいですね。

生産性向上を見据え 互いにレベルアップを

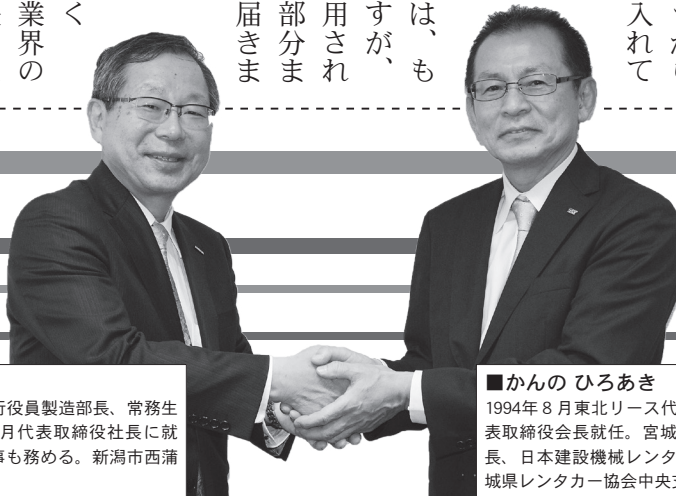
菅野 当社では安心してお勧めてできる商品の販売にも力を入れており、最近では北越工業の高所作業車の販売実績もありました。北越工業の製品を長年レンタル機械として扱ってきてその良さを十分知っているだけに、われわれも御社の営業展開のお手伝いをでき

ばという思いがあります。昨年には当社営業マンの研修も行っていただいています。

寺尾 これからはインフラの新設よりも、維持修繕の比率が上がっていくでしょうからメンテナンスにも力を入れていきたいですね。また、省力化など生産性向上の流れも進んでいくものと思われま

す。われわれ製造メーカーは、ものをつくるのは得意ですが、つくったものがどう利用されるかという部分まではなかなか目が行き届きません。そうした中で、業界の標準を示してもらえば、それにのっとって情報を出していくこともできますので、業界のリーダーである菅野会長には期待しています。

菅野 業界のレベルアップのためにも、これからも一緒に協力していきましょう。本日はありがとうございました。



■てらお まさよし
1977年に北越工業に入社。執行役員製造部長、常務生産本部長などを経て2015年3月代表取締役社長に就任。日本建設機械工業会の理事も務める。新潟市西蒲区出身

■かんの ひろあき
1994年8月東北リース代表取締役、2019年7月同社代表取締役会長就任。宮城県建設機械リース業協会前会長、日本建設機械レンタル協会宮城支部前支部長、宮城県レンタカー協会中央支部の理事、建設車両委員長